

江南区 区ビジョンまちづくり計画

〔平成27年度～平成34年度〕

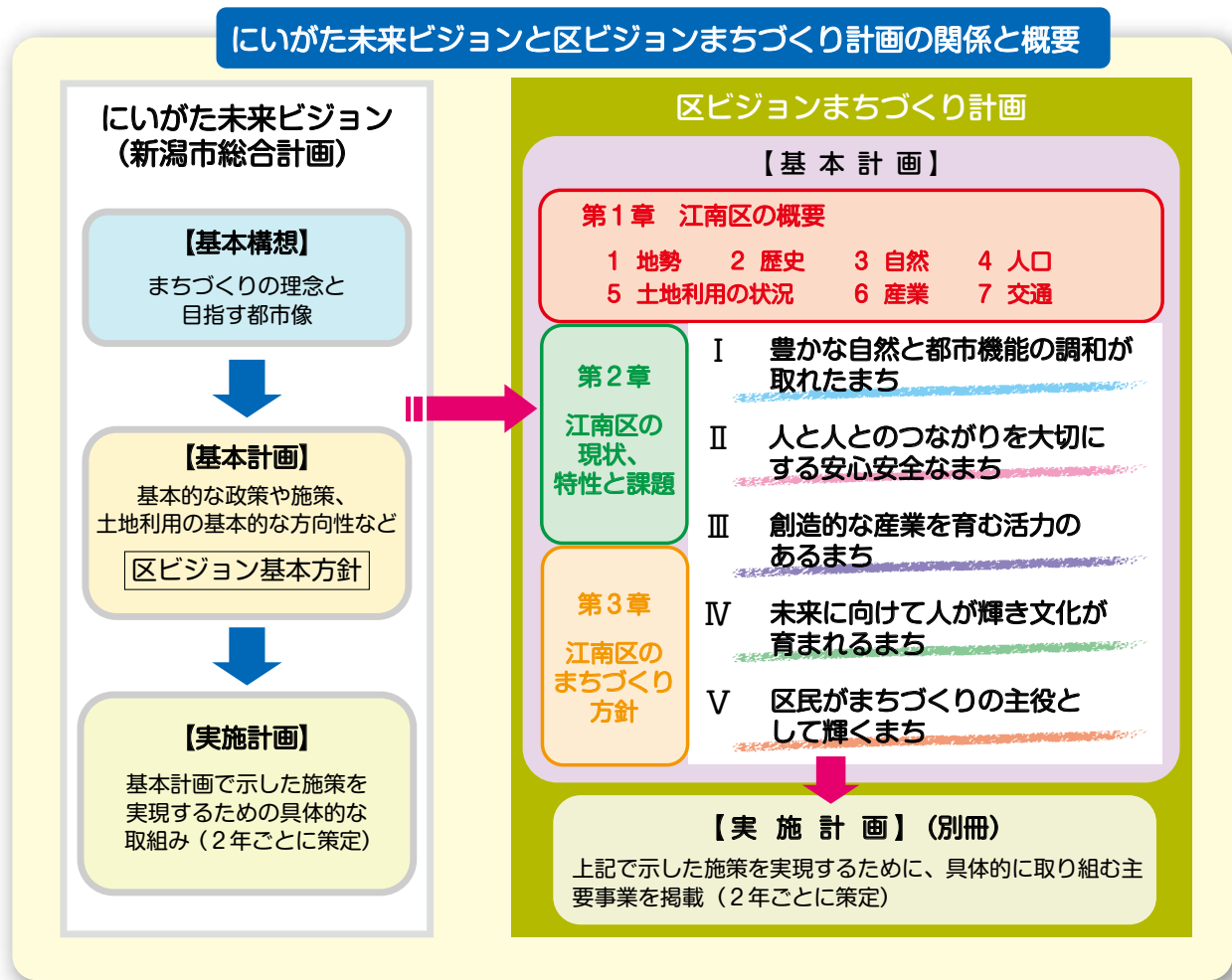


新潟市江南区役所

区ビジョンまちづくり計画の位置づけ

1 計画の位置づけ

区ビジョンまちづくり計画は、にいがた未来ビジョン(新潟市総合計画)の一部である区ビジョン基本方針の実現に向けた取組みと、実施計画に相当する具体的な取組みを示した区のまちづくり計画です。



2 計画期間

計画期間は、平成27年度から平成34年度までの8年間とします。

ただし、実施計画は、取組みの実施状況から社会・経済状況の変化などに対応するため、2年ごとに策定し進捗管理を行います。

江南区区ビジョンまちづくり計画 目次

参 考 各区のすがた	2
第1章 江南区の概要	4
1 地勢	
2 歴史	
3 自然	
4 人口	
5 土地利用の状況	
6 産業	
7 交通	
江南区区ビジョン基本方針（抜粋）・体系図	12
第2章 江南区の現状、特性と課題	16
I 豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち	
II 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち	
III 創造的な産業を育む活力のあるまち	
IV 未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち	
V 区民がまちづくりの主役として輝くまち	
第3章 江南区のまちづくり方針	28
I 豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち	
II 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち	
III 創造的な産業を育む活力のあるまち	
IV 未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち	
V 区民がまちづくりの主役として輝くまち	

各区のすがた

項目		新潟市全体	北区	東区	中央区	
人口	総数 (※1)	平成22年人口(人)	811,901	77,621	138,096	180,537
		平成47年推計人口(人)	701,875	63,954	113,153	165,059
	15歳未満	平成22年人口(人) 割合(%)	103,346 (12.8)	10,243 (13.2)	18,420 (13.4)	21,097 (11.9)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	67,380 (9.6)	6,517 (10.2)	11,882 (10.5)	16,294 (9.9)
	15～64歳	平成22年人口(人) 割合(%)	516,311 (64.0)	49,678 (64.2)	88,217 (64.2)	117,426 (66.0)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	391,575 (55.8)	35,743 (55.9)	63,877 (56.5)	98,903 (59.9)
	65歳以上	平成22年人口(人) 割合(%)	187,371 (23.2)	17,477 (22.6)	30,700 (22.4)	39,495 (22.2)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	242,920 (34.6)	21,693 (33.9)	37,394 (33.0)	49,862 (30.2)
		単身高齢者数(人)	23,054	1,616	4,179	7,610
	人口動態	65歳以上人口に占める単身高齢者数の割合(%)	12.3	9.2	13.6	19.3
		年間増減(人)	-1,452	-445	-175	407
		うち自然動態(人)	-2,073	-243	-222	-237
	世帯	うち社会動態(人)	621	-202	47	644
		世帯数(世帯)	312,533	26,050	54,447	85,405
		1世帯あたりの人員(人)	2.60	2.98	2.54	2.11
核家族の割合(%)		54.2	57.6	58.4	47.7	
単独世帯の割合(%)		30.6	21.2	28.8	44.2	
面積	3世代世帯の割合(%)	10.8	16.2	8.7	4.5	
	面積(km ²)	726.10	107.92	38.77	37.42	
農業	農家戸数(戸)	12,690	1,992	362	254	
	農業就業人口(人)	19,068	3,069	515	375	
	うち65歳以上の割合(%)	53.9	55.8	52.2	48.3	
	経営耕地面積(ha)	30,617	4,501	685	444	
工業	事業所数(所)	1,160	181	220	161	
	従業者数(人)	35,432	6,105	8,156	2,287	
	製造品出荷額等(億円)	10,050	2,528	2,911	374	
商業	事業所数(所)	7,853	557	1,167	2,647	
	従業者数(人)	61,628	3,929	10,194	20,775	
	年間商品販売額(億円)	31,664	1,202	5,292	12,824	

資料：人口：国勢調査（H22）、推計値（新潟市全体）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」、推計値(各区)はH22国勢調査を基準として新潟市推計、人口動態は新潟県人口移動調査(H25)

面積：国土交通省国土地理院(H25)

農・工・商業：世界農林業センサス(H22) 経済センサスー活動調査(H24)

江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目		
69,365	77,329	46,949	161,264	60,740	平成22年人口(人)	総数 (※1)	人口
68,834	67,638	36,798	141,792	44,920	平成47年推計人口(人)		
9,584 (13.8)	10,156 (13.2)	5,981 (12.8)	20,430 (12.7)	7,435 (12.3)	平成22年人口(人) 割合(%)	15歳未満	
7,677 (11.2)	6,640 (9.8)	3,482 (9.5)	13,103 (9.2)	4,163 (9.3)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
43,561 (62.9)	47,069 (61.0)	29,639 (63.3)	103,383 (64.5)	37,338 (61.6)	平成22年人口(人) 割合(%)	15～64歳	
39,887 (57.9)	38,493 (56.9)	19,101 (51.9)	80,590 (56.8)	22,563 (50.2)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
16,077 (23.2)	19,953 (25.9)	11,228 (24.0)	36,561 (22.8)	15,880 (26.2)	平成22年人口(人) 割合(%)	65歳以上	
21,270 (30.9)	22,505 (33.3)	14,215 (38.6)	48,099 (33.9)	18,194 (40.5)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
1,423	1,935	762	4,325	1,204	単身高齢者数(人)		
8.9	9.7	6.8	11.8	7.6	65歳以上人口に占める 単身高齢者数の割合(%)	人口動態	
-231	-228	-390	199	-589	年間増減(人)		
-141	-313	-167	-359	-391	うち自然動態(人)		
-90	85	-223	558	-198	うち社会動態(人)	世帯	
22,963	26,141	14,113	65,255	18,159	世帯数(世帯)		
3.02	2.96	3.33	2.47	3.34	1世帯あたり的人员(人)		
60.7	58.3	53.9	54.2	52.7	核家族の割合(%)		
18.8	19.7	16.2	33.7	15.8	単独世帯の割合(%)		
15.0	16.6	24.1	8.2	25.1	3世代世帯の割合(%)	面積	
75.46	95.38	100.83	93.81	176.51	面積(km ²)		
1,750	1,667	2,272	1,446	2,947	農家戸数(戸)	農業	
2,506	2,162	3,627	2,491	4,323	農業就業人口(人)		
57.1	61.6	52.1	45.4	54.0	うち65歳以上の割合(%)		
3,424	3,556	5,918	4,081	8,008	経営耕地面積(ha)		
124	95	131	87	161	事業所数(所)	工業	
5,111	2,648	5,354	1,497	4,274	従業者数(人)		
1,184	664	1,427	279	683	製造品出荷額等(億円)		
722	632	465	1,088	575	事業所数(所)	商業	
6,297	4,084	3,305	9,829	3,215	従業者数(人)		
2,401	884	2,854	5,315	891	年間商品販売額(億円)		

(※1) 平成22年人口総数には年齢不詳者も含まれているため、年代別人口と一致しない。
 総数に占める割合は年齢不詳者を除いて算出している。
 平成47年推計人口の新潟市全体は国立社会保障・人口問題研究所資料、
 区別人口は新潟市推計によるため合計値は一致しない。



第1章 江南区の概要

1 地 勢

江南区は、信濃川、阿賀野川、小阿賀野川、日本海東北道に囲まれ、面積は75.46平方キロメートルで新潟市のほぼ中心に位置し、西蒲区以外の全ての区と阿賀野市に接しています。土地は平坦で海拔0メートル地帯が多く、かつては、河川の氾濫などで幾多の浸水被害がありましたが、河川改修や土地改良事業により、広大な優良農地へと生まれ変わり、稲作を基幹とし、そ菜、果樹、花きを加えた多様な農産物を供給する都市近郊型農業が営まれています。

また、交通の要衝として、北陸道・磐越道・日本海東北道の高速道路をはじめ、国道49号・国道403号、主要地方道など広域幹線道路やJR信越本線などが通り、その利便性を活かしたまちづくりが進んでいることから、工業団地や大型ショッピングセンターも多く、居住地にも恵まれる一方、水と緑豊かな河川や農村空間が広がる、都市と農村の快適性を享受できる地域となっています。



美しく広がる田園風景

2 歴 史

江南区は、昭和32（1957）年に新潟市に合併した、曾野木・大江山・両川地区と平成17（2005）年に新潟市に合併した亀田・横越地区の5地区で構成されています。

江南区の各地区では貴重な遺跡が発見され、古くから人々が生活していたことがうかがえます。大江山地区では、縄文時代の遺跡が発見されたことにちなみ、大江山公園が整備され、歴史や自然に触れることができます。また、江南区には国指定の文化財となっている雪村友梅墨跡梅花詩（北方文化博物館所蔵）のほか数多くの文化財があります。

(1) 亀田地区の歴史

亀田地区の遺跡が集中する亀田砂丘では、縄文時代前期初頭(約6,000年前)から人々が住み着いた痕跡が残されています。近年かつて低湿地であったところからも西郷遺跡(弥生時代)や駒首潟遺跡(平安時代)など遺跡の発見が相次いでいます。中世以降にも脈々と人々の生活は受け継がれ、17世紀初頭には亀田地区の本格的な開発が進みました。その中で、元禄6(1693)年に中谷内新田が「亀田町」と改称され、翌年には六斎市が開設されて発展の基礎が築かれました。栗ノ木川は、水上交通路として重要な役割を果たしていました。



亀田三・九の市

明治30(1897)年の鉄道開通により、亀田地区は地域の経済的拠点に成長します。明治22年の町制施行後、明治34年に袋津村ほかと、また大正14(1925)年には早通村と合併し地域も広がりました。

亀田地区の伝統的特産物といえば亀田縞かめだじまです。農家の作業着などに使われる藍染織物で、江戸期から昭和初期まで盛んに生産されました。近年その伝統が見直され、再び製造されています。

平成17(2005)年の新潟市への合併後、同年10月に橋上化された現在の亀田駅の供用が開始されました。また、平成8年に亀田総合体育館が建設され、平成24年に江南区文化会館、平成27年には武道場屋内多目的運動場が完成し、20年を経て、亀田総合運動公園(アスパーク亀田)が文化・スポーツの拠点として整備を完了しました。



亀田駅周辺

地理的・人口的に江南区の中心地域として発展し続けています。



(2) 横越地区の歴史

横越地区の亀田砂丘には今から約5,000年前の縄文時代前期末から人々が住んでいた形跡があります。平安時代中頃の9世紀末には、自然堤防上に開拓集落が営まれました。中世には、この地が阿賀野川・小阿賀野川の水上交通の拠点の一つとなっていたことを示すように、「高野山清浄心院越後国過去名簿」には、享禄3(1530)年に「ヨココシ」という地名が初めて登場します。

江戸時代の横越地区は、横越島(亀田郷の旧称)と呼ばれた一帯の約110数か村を束ねた新発田藩横越組(後に蒲原横越組)の大庄屋所在地となるとともに、新発田藩の支藩として成立した沢海藩の拠点ともなりました。藩の陣屋が置かれた沢海は、城下町風の景観を今にとどめています。

明治8(1875)年、大河の架橋としては我が国最初である横雲橋の建設により、横越地区は益々交通の要衝として発展します。明治34年11月には横越・沢海・木津・二本木・小杉の5か村が合併し、横越村が誕生。大正2(1913)年の木津切れなど幾多の水害を乗り越え、明治・大正期には中蒲原郡の養蚕の中心地の一つになりました。大正末期から昭和初期にかけて農業用水路等の整備により開田も進みました。



北方文化博物館



梨の実館

戦後、横越地区では高速交通体系の整備を足がかりに工業団地の造成や宅地開発が進み、人口が増加しました。平成7(1995)年に人口が1万人を突破し、平成8年には町制が施行されました。横越・両川・亀田地区の伝統的特産品である梨は、二本木地内の広域選果施設「梨の実館」で選果が行われ、市内外に出荷されています。

平成17(2005)年の新潟市への合併後、同年10月に北区から続く中央環状道路の横越バイパスが一部供用を開始したことにより、交通拠点としての発展が期待されています。



(3) 曾野木地区の歴史

曾野木地区は、新発田藩の記録によれば江戸時代初頭に信濃川の自然堤防上に曾川、嘉木などの村が成立し、次いで内陸の低湿微高地に村々ができていったとされています。江戸時代、低湿地帯を中心に耕地の開発が進みました。幕末には念願であった信濃川の堤防整備により天野村が地続きとなりました。

明治22(1889)年、曾川村ほか10か村が合併して曾野木村が誕生しました。村名は曾川・天野・嘉木から一字ずつを採ったものです。明治34年には鍋湯新田が旧山湯村から編入されました。明治40年代から大正初期にかけて、次々に排水機が設置されましたが、大正6(1917)年に発生した曾川切れでは、堤防が約110mにわたって決壊し、たちまち亀田郷は泥の海と化しました。

戦後、土地改良事業などにより亀田郷は優良農地へと生まれ変わりました。昭和32(1957)年5月3日、曾野木村は新潟市に合併しました。昭和42年に市営住宅団地、民間開発のニュータウン造成が始まり、曾野木地区の人口、世帯数は飛躍的に増加しました。

平成17(2005)年に老朽化した鳥屋野浄水場の代替施設として信濃川浄水場が完成し、曾野

木・両川地区と中央区西部に水道水を供給しています。昭和39年の新潟地震で損傷した栗ノ木排水機場にかわって、昭和43年に親松排水機場が完成し、その後の大雨に対応するため、平成15年鳥屋野潟排水機場が完成しました。その後、親松排水機場が老朽化し、排水機能の維持が困難となったため、平成20年には国営亀田郷農業水利事業で新親松排水機場が完成し、農地や住民の財産を洪水から守るため大切な役割りを果たしています。



親松排水機場



(4) 大江山地区の歴史

大江山地区は、亀田郷の中で歴史が古い地域の一つです。特に蔵岡・笹山から駒込・袋津へと連なる通称山通と呼ばれる砂丘には、縄文時代前期初頭(約6,000年前)の笹山前遺跡など遺跡が多く点在しています。また、松山・直り山から茗荷谷、丸山へと続く砂丘や、大淵など阿賀野川の自然堤防上にも奈良・平安時代の遺跡が多く見られ、この地域に古くから人々が生活してきたことを示しています。慶長期の新発田藩の記録には、大淵、蔵岡、細山などの村々の名が見られます。江戸時代から伝わる「直り山神楽」は一度途絶えましたが、地域の人々の協力で昭和54(1979)年に復活し、諏訪神社祭に奉納されています。明治22(1889)年、山岡村、山通村、大淵村、江口村の4か村が成立し、明治34年、4か村が合併して大江山村となりました。村名は4か村名から一字ずつ採って組み合わせたものです。

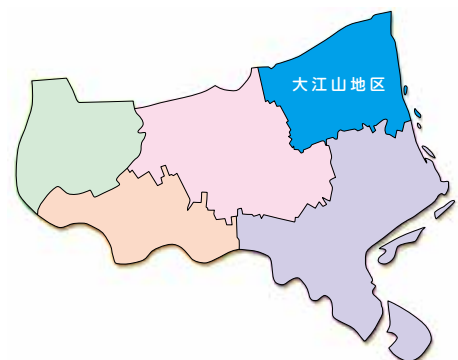


笹山前深鉢形土器



中央卸売市場での旬果旬菜いきいきフェスタ

昭和32年5月3日、大江山村は新潟市と合併しました。昭和44年には食品工業団地が完成し、地元からも多数雇用されています。昭和53年から大江山農村総合モデル事業が実施され、集落道、排水処理施設や集会施設などの整備が行なわれ、生活環境の改善が進みました。平成19(2007)年5月、総合的な食品の流通拠点となる中央卸売市場が完成し、物流の効率化と食品の安心・安定供給、新潟の食と花を全国に売り込む拠点となっています。



(5) 両川地区の歴史

両川地区は、新発田藩の記録によれば、慶長年間(1596～1615年)に舞瀧村を始め酒屋村、上和田村などの村々が相次いで開発されました。地区には新潟市の伝承芸能として知られる「太々神楽」が伝わっています。明治34(1901)年11月1日、和舞村・割野村・嘉瀬村・酒屋村が合併して両川村となりました。両川の地名は二つの川(信濃川・小阿賀野川)に由来して名付けられました。河川交通全盛時代には、北前船の寄港する新潟湊から会津や長岡方面へ物資を流通させる船着場として繁栄しました。また、在郷町として商工業が発達し、旅館や料理店などが建ち並びました。

戦後は、耕地整理事業が実施され、さらに機械農業等の営農形態の変化に対応するため、昭和41(1966)年に当時としては画期的な1区画40アールの大型ほ場を第2次構造改善事業として実施し、昭和42年に完成。昭和47年5月22日、昭和天皇の行幸の一事業として、1区画2.8ヘクタールの水田での直播作業を天覧に供しました。

昭和32年5月3日、両川村は新潟市と合併しました。両川地区の平賀には信濃川漁業協同組合があり、信濃川下流域の漁業を統括し、流域では鮭や鯉、モクズガニなどが漁獲されるほか、鮭の養殖にも取り組んでいます。平成5(1993)年に完成した両川工業団地には、多くの企業が



江南宣隊ユメレンジャー

進出し、地元からも多数雇用されています。秋葉区や三条市方面と結ぶ亀鶴橋は、老朽化に伴い平成17年3月、三代目の橋が完成しました。橋から見る朝日と夕日はすばらしい景観で人々から親しまれています。

近年では、商工会青年部によるオリジナルご当地ヒーローを活用した、地域活性化の取り組みも行われています。



酒屋太々神楽



3 自然



阿賀野川の白鳥

江南区は、信濃川と阿賀野川そして両河川を連絡する小阿賀野川に囲まれた自然の魅力あふれる地区です。川の豊かな自然環境からさまざまな植物や鳥などが生息しています。河川には、たくさんの白鳥が飛来し羽を休めています。また、鮭漁も盛んに行なわれ、秋から冬の風物詩となっています。

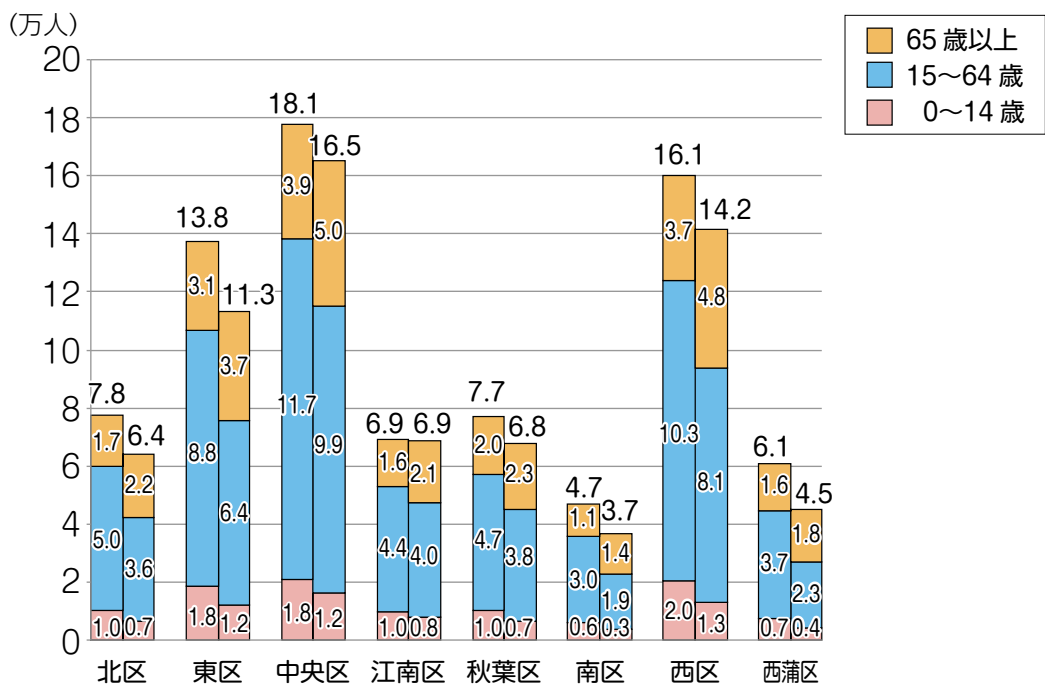
広大な田園は、生産基盤であるとともに優れた自然空間を形成し、人々にやすらぎを与えています。

4 人口

平成22（2010）年国勢調査では、人口69,365人、世帯数が22,963世帯です。この国勢調査の結果を基準として将来の人口を推計すると、平成47（2035）年には人口約68,800人と推定され、減少率は8区中最も低い0.99%になると見込まれます。

また、15歳未満の年少人口が平成22年では9,584人、全人口に対する割合が13.8%、平成47推計は7,700人、全人口に対する割合が11.2%で8区の中で最も高い割合となっています。

【区別の人口と推計人口】

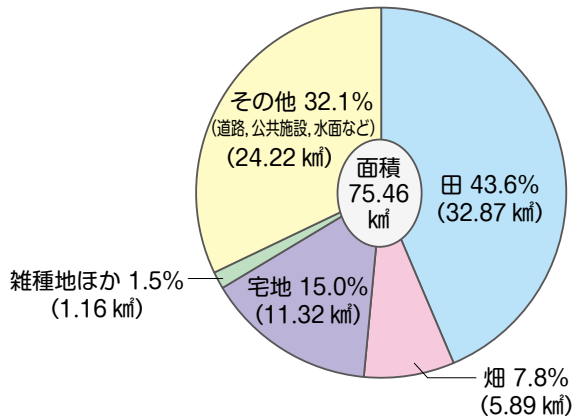


資料：推計値は国勢調査（H22）結果を基準として新潟市推計
各区の棒グラフ左側がH22の人口、右側がH47推計人口

5 土地利用の状況

区域の約半分を田や畑の農地が占め、宅地としての利用は約15%となり、緑豊かに広がる田園などの自然環境との共生を図っています。

【江南区の土地利用割合】



緑豊かに広がる田園

資料：新潟市資産評価課調べ（H26.1.1）

6 産 業

土地改良事業により整備された広大な優良農地では、稲作のほか、なす、梅、梨、いちご、とうもろこしなどの生産による都市近郊型農業が展開されています。

交通の利便性が高い工業団地や食品団地では製造業が盛んで、大型ショッピングセンターや中央卸売市場は、人・物の交流の場として賑わいを見せています。

7 交 通

主要な道路である、日本海東北道、磐越道をはじめ、国道49号、国道403号、県道などの結節点となっています。

鉄道は、JR信越本線が通っており、1日平均乗車人員が5千人を超えるJR亀田駅があります。

バスは、市中心部や新津方面などを結んで運行されているほか、区バス・住民バスが身近な公共交通として利用されています。



小阿賀野川を渡る JR 信越本線

江南区区ビジョン基本方針（抜粋）

区の将来像

緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

目指す区のすがた

I 豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち

- 主要な道路の結節点やJR信越本線を有する交通の要衝としての利便性を活かして、人と物が交流し誰もがいきいきと快適に生活できるよう、道路や公共交通などの環境整備を進め、都市機能の向上を図ります。
- 緑豊かに広がる田園風景と信濃川、阿賀野川、小阿賀野川を結ぶ水と緑のネットワークづくりやその活用と、資源循環型社会の構築を目指した環境にやさしいまちづくりを推進するなど、自然環境との共生を図り、未来の世代につなげます。

II 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

- 震災、風水害、津波災害などさまざまな自然災害から区民の生命と財産を守るため、地域の特性を踏まえた災害に強いまちづくりを進めます。
自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守る交通安全・防犯意識の高い地域社会の実現を目指します。
- 住み慣れた地域で、生涯を健やかに安心して暮らせるまちを目指します。
誰もが気軽に立ち寄れる場や活動の拠点づくりを進めるとともに、「ふれあいと支えあい」を大切に、人と人とのつながりを感じられるまちを目指します。

Ⅲ 創造的な産業を育む活力のあるまち

- 地元の多様な農産物を活用することで、農業と商工業の連携による創造的な産業の育成を図り、江南区ならではの個性と魅力あるものづくりを進めるとともに、新たな雇用の創出を目指します。
- 地域が一体となり、そこに培われた風情や歴史など“地域らしさ”を感じさせる、活力と魅力にあふれた賑わいのあるまちなかを創出し、交流人口の拡大を目指します。

Ⅳ 未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち

- 将来を担う大切な人材である子どもたちの健やかな成長に向けて、学校と家庭や地域が連携して学・社・民の融合により、教育力の向上を図ります。
- 先人から受け継がれた歴史や伝統を継承し、多様な文化芸術にふれる機会の創出や市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりなど、さまざまな個性が発揮でき、生涯にわたり人が輝くまちを目指します。

Ⅴ 区民がまちづくりの主役として輝くまち

- さまざまな地域課題解決に向けて、区自治協議会、地域コミュニティ協議会、自治会・町内会などとの協働をさらに深め、区民が主役となる自治の実現を目指します。
- 江南区サービス憲章に基づき、区民の立場に立って迅速・丁寧な対応を目指すとともに、多様な区民の声を大切にする区役所づくりを進めます。



梅まつり



旬果旬菜いきいきフェスタ

区ビジョン基本方針

大分類

I 豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち

都市機能の向上

憩いの空間づくり

II 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

いつまでも安心して安全に暮らせるまちづくり

健やかにいきいきと暮らせるまちづくり

III 創造的な産業を育む活力のあるまち

創造的な産業の育成

活力と賑わいのある
まちなかの創出

IV 未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち

地域と共に創る
子どもたちの未来

文化が花開き
スポーツの盛んな
まちづくり

V 区民がまちづくりの主役として輝くまち

区民と共に歩む
協働のまち

区民の声を大切に
する区役所づくり

ちづくり計画体系図

中分類・施策

- ・道路
- ・公共交通
- ・土地利用

- ・道路網の充実
- ・公共交通のさらなる利便性の向上
- ・計画的な土地利用

- ・河川・公園
- ・環境・廃棄物

- ・水辺空間の活用
- ・公園整備
- ・環境保全対策の推進

- ・防災
- ・防犯・交通安全

- ・防災力の向上
- ・防犯・交通安全の活動の強化

- ・福祉・医療

- ・ずっと安心して暮らせる地域づくり
- ・子どもを安心して産み育てられるまちづくり

- ・農業
- ・産業

- ・農業の振興
- ・新たな産業の創出

- ・まちなか

- ・まちなかの活性化と交流人口の拡大

- ・生涯学習
- ・学・社・民の融合による教育
- ・家庭教育

- ・生涯にわたり学びの機会の提供
- ・学・社・民の融合による教育の推進
- ・家庭教育の支援

- ・文化
- ・歴史・伝統
- ・スポーツ

- ・文化の振興・文化の創造
- ・歴史や伝統の継承
- ・スポーツ活動の支援・振興

- ・区民との協働

- ・区自治協議会との協働
- ・コミュニティ活動への支援

- ・区役所のあり方
- ・広報・広聴

- ・親しまれ信頼される区役所
- ・広報・広聴の充実

第2章 江南区の現状、特性と課題

I 豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち

1 都市機能の向上

(1) 道路

- 江南区は、北陸道、磐越道、日本海東北道の高速自動車道路をはじめ、国道49号・403号、主要地方道、広域幹線道路やJR信越本線を有する交通の要衝になっており、自動車が区民の主な移動手段となっています。
- 大型ショッピングセンターの立地や中央卸売市場の開設など交通渋滞が生じている箇所があるため、円滑な移動を可能とする交通体系の整備が求められています。
- 地域の実情や利便性、周辺環境に配慮し、子どもや高齢者・障がい者も安心して安全に利用できる歩道のバリアフリー化や自転車のスムーズな移動など、様々な視点に配慮した道路整備を進めていく必要があります。

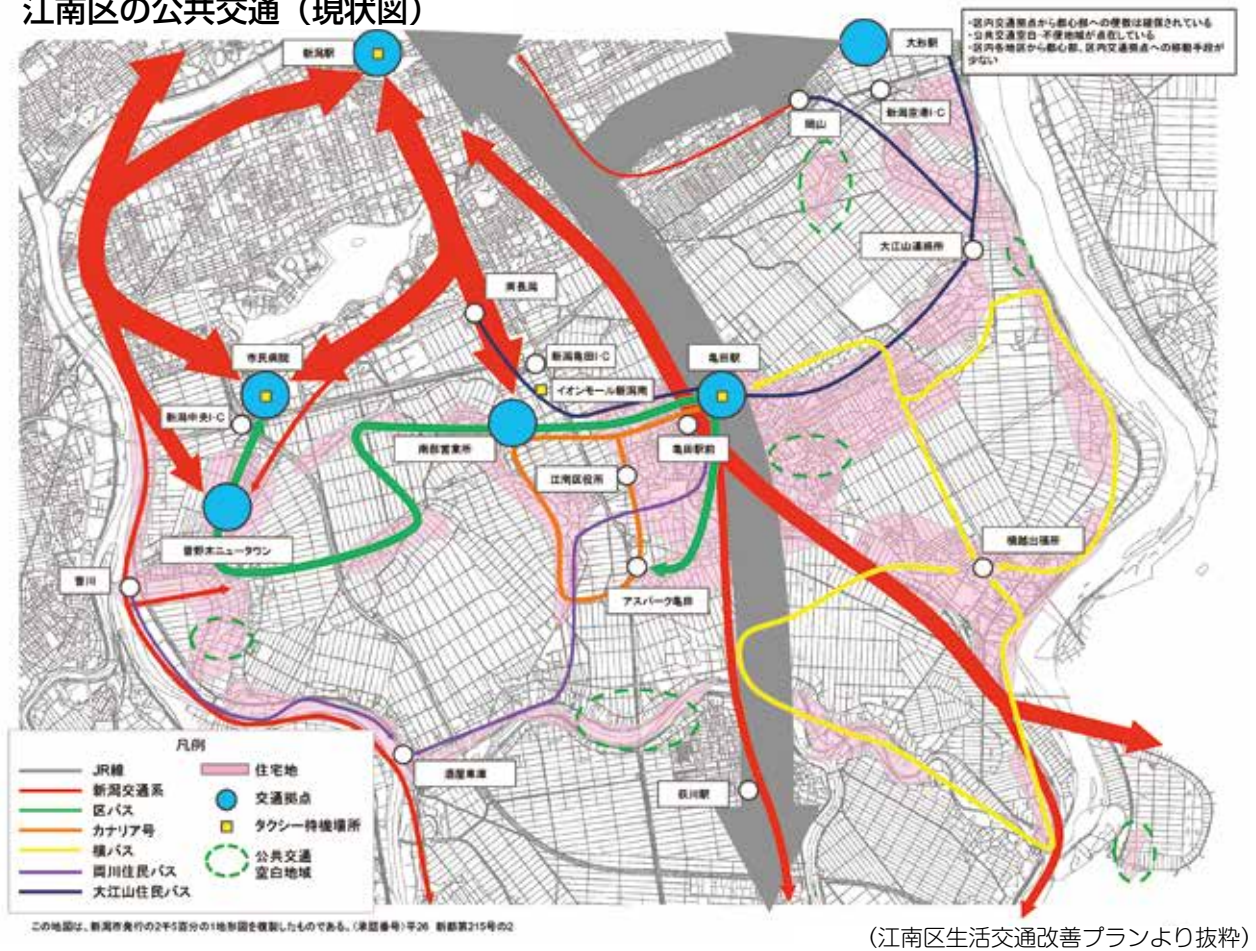
(2) 公共交通

- バス路線の廃止などに伴い、いわゆる「交通弱者」といわれる、高齢者や障がい者、中学生・高校生の交通手段が少なくなり、通院・通学・買い物など日常生活に不便を感じている地域があります。
- これから本格化する人口減少、少子・超高齢化に対応するため、効率性や持続の可能性も考慮しながら、地域住民や関係機関との連携を強化し、誰もが公共交通で移動できる環境のさらなる充実に向け、生活交通体系を構築していく必要があります。
- 都心への自動車流入の削減や環境対策として、鉄道など公共交通の利用を促進するためパークアンドライド施設などを備えた新たな駅の設置が求められています。



江南区バス

江南区の公共交通（現状図）



(3) 土地利用

- 交通結节点や流通拠点施設などの重要な社会資本施設を有効活用することで、市全体や区の持続的な発展に寄与できる計画的な土地利用の検討が必要です。
- 人口流出や高齢化に伴い地域のつながりや活力が低下している農村集落があり、農村集落維持活性化に役立つ田園集落づくり制度などを活用した地域活性化が求められています。

2 憩いの空間づくり

(1) 河川・公園

○水と緑のネットワークを形成する阿賀野川フラワーライン、小阿賀野川河川公園、北山池公園など水辺とふれあい、ゆとりと潤いのある空間を保全するとともに利活用して、健幸都市づくりや交流人口の増加を図ることが必要です。



阿賀野川フラワーライン



北山池公園

○江南区の1人当たり公園面積は8.2㎡と市平均11.7㎡より3.5㎡下回り、全区の中で3番目に少ない現状です。公園は防災上や災害時における避難場所としても重要な施設という観点から、多様な機能を有した公園の整備が必要です。

○子どもたちが安心して安全に遊べるように、遊具の安全確保や環境の保持に努める必要があります。

【1人当たりの公園面積】

江南区	8.2 ㎡
北 区	23.1 ㎡
東 区	5.1 ㎡
中央区	10.9 ㎡
秋葉区	24.6 ㎡
南 区	5.4 ㎡
西 区	8.7 ㎡
西蒲区	14.7 ㎡
市平均	11.7 ㎡

資料：新潟市公園水辺課調べ H26.3.31現在

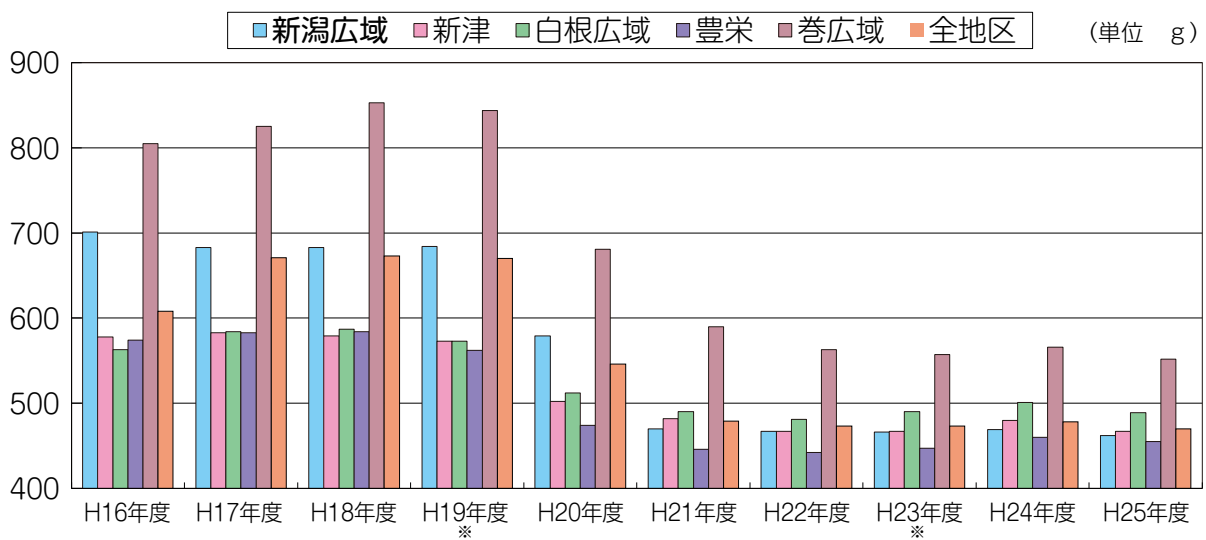


よこごし公園

(2) 環境・廃棄物

- 平成20年6月から始まった新ごみ制度の導入により、家庭からのごみの排出量が、制度開始前に比べ、市全体で約3割減少しました。今後、引き続き資源循環型社会の構築を目指すため、3R（ごみの発生抑制、再使用、再生利用）の推進が必要です。
- 不法投棄が行なわれる箇所もあり、美しい景観の保護のためにも、啓発やパトロール活動を強化し環境を保全していく必要があります。
- 家庭で使用した汚水をそのまま排水し自然に戻すことは、生活環境を悪化させるとともに、自然環境に大きな負担をかけます。美しい自然・田園環境を次世代につなげていくためにも、下水道未普及地域の解消を進める必要があります。

【新潟市 家庭ごみ搬出量の推移】（1人1日当たりのごみの排出量）



<地区別データ> 江南区は新潟広域に含まれます（新潟広域：江南区・東区・中央区・西区）（単位 g）

地区名	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度※	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度※	H24年度	H25年度
新潟広域	701	683	683	684	579	470	467	466	469	462
新潟	578	583	579	573	502	482	467	467	480	467
白根広域	563	584	587	573	512	490	481	490	501	489
豊栄	574	583	584	562	474	446	442	447	460	455
巻広域	805	825	853	844	681	590	563	557	566	552
全地区	608	671	673	670	546	479	473	473	478	470

資料：新潟市廃棄物政策課調べ ※うるう年のため366日で計算

Ⅱ 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

Ⅰ いつまでも安心して安全に暮らせるまちづくり

(1) 防災

○洪水や地震などの災害時における、区民への迅速で正確な情報伝達体制の充実が求められています。また、区民自らが自主的な防災活動の重要性を認識し、地域で助け合う体制を確立することが大切です。

○江南区は、豊かな自然がある一方で、集中豪雨による浸水被害や河川の氾濫などが懸念されることから、地域の実状に即した浸水対策を進めていく必要があります。また、災害の発生を想定して防災対策の整備充実を図ることが不可欠です。



自治会防災訓練

(2) 防犯・交通安全

○犯罪を未然に防ぐため、区民の防犯意識の向上や、関係機関の連携強化、地域をあげて犯罪を起こしにくい環境づくりを進める必要があります。

○セーフティ・スタッフ、民生児童委員などボランティアや各種団体による登下校時のパトロールや警察・交通安全協会との連携を強化し、子どもたちの安全を守る取組みを進める必要があります。



交通安全運動

○高齢者が関わる交通事故が交通事故全体に対し高い割合で推移しています。誰もが加害者にも被害者にもならないため、交通安全意識の向上や、安全な道路交通環境の整備に努めていく必要があります。

【江南区管内の交通事故発生状況】

年	H23	H24	H25	H26
全事故件数(件)	326	262	260	221
高齢者事故件数(件)	77	70	84	69
全事故に占める割合	23.6%	26.7%	32.3%	31.2%
高齢者加害事故件数(件)	75	40	44	36
全事故に占める割合	23.0%	15.3%	16.9%	16.3%

資料：新潟県警察本部

2 健やかにいきいきと暮らせるまちづくり

(1) 福祉・医療

- 核家族化による単身・高齢者のみの世帯が増加し、家族介護力が低下していることから、可能な限り住み慣れた地域での生活ができるよう地域コミュニティを強化しつつ、地域社会全体で高齢者を支える地域福祉体制の充実が求められています。
- 入所施設や入院生活から地域社会への移行が求められるなか、障がいのある人などが地域で自立した生活をおくるため、福祉サービスや就労などでの支援が必要です。
- 高齢化やライフスタイルの変化などにより、生活習慣病の増加が大きな健康課題となっており、日ごろの健康管理にむけた取組みを進め健康寿命の延伸が必要です。

【江南区の65歳以上の人口と世帯数】

	世帯数	人口 (人)	65歳以上 (人)	高齢化率 (%)	65歳以上の み世帯数	65歳以上のみ 世帯数の比率 (%)
H20	23,496	68,837	14,729	21.4	3,975	16.9
H26	25,469	69,313	17,557	25.3	5,795	22.6

資料：住民基本台帳人口

(H26.3.31現在)

- 少子化の進行や核家族の増加は、家庭や地域での育児・教育機能の低下をもたらし、子育ての環境は厳しさを増しています。保育園では、低年齢児保育の需要増加など、保育サービスに対する要望が多様化しており、それに対応した子育て支援を積極的に展開していく必要があります。
- 遊びや学習、地域の人たちとの関わり合いを通して、子どもたちの健やかな成長を図るため、児童館やひまわりクラブなど子どもの居場所づくりを進める必要があります。



子育て支援センター

Ⅲ 創造的な産業を育む活力のあるまち

Ⅰ 創造的な産業の育成

(1) 農業

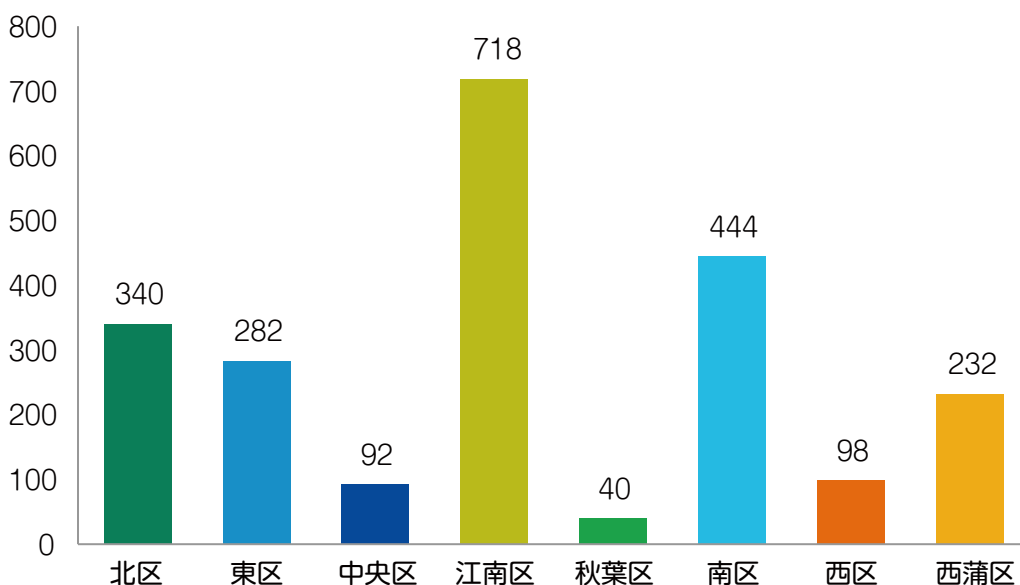
- 江南区は広大な優良農地と恵まれた水利条件を有し、農業が基幹産業のひとつですが、農業従事者の高齢化や厳しい経営環境のため、後継者が育ちにくく、農家戸数が減少しています。
- 都市近郊型農業の優位性を活かした高い付加価値を持つ農業経営や、農地の集約を進めて担い手の育成を図る必要があります。
- 農産物の直売所や農家レストラン、食育の推進など、生産者と消費者が触れあえる場と機会の充実を図り、「食」と「農」を活かした新たな区の魅力発信が期待されています。

(2) 産業

- 江南区は亀田工業団地、木津工業団地、両川工業団地、あけぼの印刷団地、食品工業団地をはじめ、数多くの企業が立地しています。これらの地元工業と地元農業との連携を進め、価値観やライフスタイルの多様化、超高齢社会への急激な変化に対応する地域に根差した高い付加価値を持つ創造的な産業を育成し、雇用を拡大していくことが求められます。

【区別食料品製造業出荷額】

(単位：億円)



資料：経済センサス (H24)

2 活力と賑わいのあるまちなかの創出

(1) まちなか

○江南区は交通網にめぐまれ、大規模商業施設の立地により区外や他の市町村からも多くの買い物客が訪れ、賑わいを見せている一方で、既存商店街では、高齢化や後継者不足により、廃業・転業する商店が増加しています。これからの高齢化社会に必要な、魅力ある商店街を創造していく取組みが求められます。

○江南区は豊かな自然環境や全国的にも知名度の高い北方文化博物館、320年以上の歴史をもつ亀田三・九の市や、酒屋の川湊の歴史などの観光資源が存在します。これらの観光資源に加え、地域に残る風情やまちなみ、農産物など、食を含めた地域資源を掘り起こし、総合的に活用することで地域の魅力を高め、情報発信していくことで、交流人口を拡大していく取組みが求められます。



亀田三・九の市



コミュニティ活動「水郷の花嫁さんは船で行く」

Ⅳ 未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち

Ⅰ 地域と共に創る子どもたちの未来

(1) 生涯学習

- 子どもたちの成長や学びなど地域社会全体で子育てや教育活動を支えていく環境づくりが求められています。
- 高齢化や核家族化により人とのつながりが希薄になっています。仲間づくりと合わせ、生きがいを持った暮らしをするため生涯学習のさらなる推進が求められています。

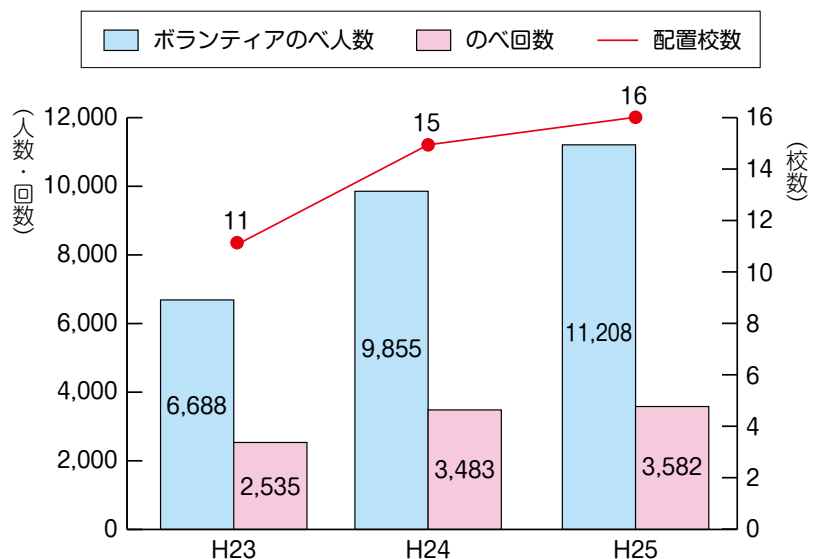
(2) 学・社・民の融合による教育

- 社会環境の変化により、家庭や地域の教育力の低下が懸念されているなか、学校、家庭、地域、社会教育機関、地域の諸団体、企業などが一体となって教育活動を進める「学・社・民の融合による教育」の充実が期待されています。
- 地域教育コーディネーターを全小中学校に配置し、学校支援ボランティアの協力を得て、子どもたちの学力向上や社会性の育成を図っています。今後、内容の充実に加え、多くの区民の参画を図るために、より一層の周知が必要です。
- 学校施設については、老朽化等の安全性の低下を防止し、安全な教育環境を確保するほか、地域と学校の連携を進めるため、地域住民や保護者にとっても利用のしやすい施設整備が必要です。

(3) 家庭教育

- 家庭においては親が子育てに悩み不安を持つ傾向が見られるため、子どもの成長期に合わせて、子育てに関する知識や情報、親としての関わりなどを学ぶ学習機会の拡充が必要です。

【地域教育コーディネーター配置校数と学校支援ボランティアのべ人数・のべ回数の推移（江南区）】



資料：新潟市教育委員会

2 文化が花開きスポーツの盛んなまちづくり

(1) 文化

- 区の文化発信拠点として完成した、公民館・図書館・郷土資料館・音楽演劇ホールを備えた江南区文化会館を中心に、多様な文化芸術に対する区民のニーズに対応した、文化事業、学習情報、学習機会の提供が求められています。
- 区民による自主的な文化芸術活動が公民館活動をはじめ、民間ギャラリーなどで活発に行われており、多様な文化活動に対し支援していく必要があります。



江南区文化会館

(2) 歴史・伝統

- 区内には遺跡や先人が残した貴重な遺産など文化財が数多くあります。この地域に残る文化財を後世に引継ぐとともに、江南区郷土資料館を中心に保存・活用を行なっていく必要があります。
- 区内には各地域で伝統芸能や祭礼をはじめとする様々な伝統文化が大切に受け継がれています。今後も永く継承されるため地域と行政が協力して継承に向けた取組みをしていくことが必要です。



区内の伝統芸能

(3) スポーツ

- 健康でいきいきとした生活を送るため、子どもから高齢者までスポーツやレクリエーションを通じた健康づくりを進める必要があります。
- 区の一体感を醸成するために、区民誰もが参加できる、レクリエーション事業などのさらなる充実が求められています。スポーツ推進委員やスポーツ関係団体と連携を図り、地域に密着した体制づくりや体育施設や学校開放の利用など、区民が身近で気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを継続的に進める必要があります。
- 区内には、スポーツ少年団などのジュニア育成団体が数多くあります。子どもがスポーツに触れる環境づくりを支援し、底辺の拡大を図る必要があります。



健康ウォーク

V 区民がまちづくりの主役として輝くまち

Ⅰ 区民と共に歩む協働のまち

(1) 区民との協働

- 社会環境の変化により、区民ニーズや地域の課題も多様化・複雑化しています。地域と行政が目標を共有しそれぞれの役割と責任を認識したうえで、協働して地域課題の解決に取り組む必要があります。
- 区内に8つの地域コミュニティ協議会があり、それぞれ特色ある活動を行なっています。地域活動の活性化や顔が見える関係づくりには、活動や交流の場となる拠点の整備など、活動を支えるための支援が必要です。
- 地域活動や自治会活動への参加者の減少など、地域の相互扶助機能が低下しています。地域内の様々な団体間の協力・連携を促進する取組みが必要です。



区自治協提案事業
「命を守るまちあるきプロジェクト」



コミュニティ活動
「地域探訪 まち歩き」

2 区民の声を大切にする区役所づくり

(1) 区役所のあり方

- 区民の視点に立った行政を推進し、「区民の区役所に対する満足度」の向上が求められているなか、初めて来庁される方にも、分かりやすくプライバシーに配慮される窓口が求められています。
- よりよい区民サービスを提供するため、コンプライアンスを基本に区役所業務を進めるとともに、区民から信頼される区役所となるように職員のさらなる資質の向上と意識改革が求められています。
- 誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、子育てや介護の時間、家庭、地域、自己啓発などにかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活ができるよう、ワーク・ライフ・バランスを推進していく必要があります。

(2) 広報・広聴

- 広報活動は区民と区役所を結ぶ重要な役割を持っています。区役所だよりだけでなく、区ホームページでの迅速かつ適切な情報提供を行なうなど広報活動を充実させるとともに、江南区の魅力も積極的に発信する必要があります。
- 区民と協働でまちづくりを進めるため、コミュニティ協議会と区長が直接意見交換を行う区長懇談会の開催や区長への手紙など、多様なニーズを区政に反映させる仕組みの充実が必要です。



江南区の「食の情報発信サイト」四季彩食菜

第3章 江南区のまちづくり方針

I 豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち

1 都市機能の向上

(1) 道路網の充実

- 移動時間短縮や都心部への放射状道路の混雑緩和など、広域的な道路整備を進め、さらなる道路網の充実を図ります。
- 中央卸売市場、鶉ノ子インターチェンジ周辺など、交通渋滞の解消に向けて道路整備など円滑な交通体系の整備に取り組めます。
- 登下校時における児童・生徒の安全確保のため、通学路の危険箇所解消と高齢者や障がいのある人も安心して安全に通行できる道路整備に取り組めます。

<実施に向けた取組み例>

- ・新潟東スマートIC整備
- ・主要地方道 新潟中央環状道路整備
- ・都市計画道路 太平大淵線道路整備（嘉瀬蔵岡線5号）
- ・市道 南7-383号線道路整備



新潟東スマートIC 鳥瞰図

(2) 公共交通のさらなる利便性の向上

- 利用者のニーズやバス路線再編に合わせ、区バス・住民バスの運行内容を見直し、区全体における公共交通の充実を図ります。
- 住民バスへの支援を強化・充実し、新たな住民バスの創出や既存住民バス運営の安定化を進めることで、公共交通空白・不便地域の解消を目指します。
- 公共交通関係機関の連携強化を図り、区民の地域の公共交通に対する意識を高めます。
- 都心部への自動車流入の削減や環境対策として、鉄道など公共交通の利用を促進するため、パークアンドライド施設などを備えた新たな駅の設置に向け助言・支援します。

<実施に向けた取組み例>

- ・区バス運行事業
- ・住民バス補助事業
- ・各企業や施設に対する公共交通利用促進に向けた啓発活動
- ・パークアンドライド施設などの整備の検討

(3) 計画的な土地利用

- 中央卸売市場周辺地区の整備により、市場機能の強化・補完や新たな雇用の創出など拠点形成に取り組めます。
- 二本木地区において、交通関連の重要な社会資本施設を有効利用しながら、市全体や区の持続的な発展に寄与できる計画的な土地利用に向け助言・支援します。
- 人口減少や高齢化する農村集落の維持活性化を図るため、開発行為等の許可の基準に関する条例の周知を図るとともに、田園集落づくり制度について地域とともにその活用を検討します。

<実施に向けた取組み例>

- ・市場周辺地区開発事業
- ・二本木地区における土地区画整理事業の助言・支援
- ・農村集落の維持活性化の検討

2 憩いの空間づくり

(1) 水辺空間の活用

○緑豊かに広がる田園風景と阿賀野川、小阿賀野川など水辺とふれあえる公園を保全・利活用し、健幸都市づくりの推進と交流人口の増加を図るため、自転車を活用した交流会の開催など区民が気軽に自然や水辺を体験できる機会の創出を図ります。

<実施に向けた取組み例>

- ・ 自転車区めぐり環境整備の推進
- ・ 区めぐり自転車交流会



区めぐり自転車交流会

(2) 公園整備

○防災機能として、また災害時の拠点としても重要な施設という観点から、多様な目的に対応した公園整備について検討を進めます。

○子どもたちが安全に利用できるように、遊具など公園施設の巡視、点検や環境の保持について公園愛護会と連携して努めるとともに、規模や目的をはじめ公園の施設概要などきめ細かな情報提供を図り利用者の利便性を高めます。

<実施に向けた取組み例>

- ・ 多目的公園整備の検討



大江山公園



亀田公園



阿賀野川フラワーライン



舞平公園

(3) 環境保全対策の推進

- 環境にやさしい資源循環型社会の実現に向け、区民、事業者、行政が一体となった3R（ごみの発生抑制、再使用、再生利用）の取組みを推進します。
- 不法投棄防止のためパトロールや啓発活動など、不法投棄対策を推進します。
- 下水道や合併処理浄化槽などの総合的な汚水処理施設の整備推進をするとともに、施設の維持管理に努めます。



一斉環境美化活動

<実施に向けた取組み例>

- ・ 江南区一斉環境美化活動
- ・ 不法投棄防止パトロール
- ・ 不法投棄防止対策
- ・ 未普及地域解消のための、持続可能な汚水処理の推進

Ⅱ 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

Ⅰ いつまでも安心して安全に暮らせるまちづくり

(1) 防災力の向上

- 自主防災組織結成を進めるとともに、組織の活動に対する支援の拡大や人材の育成を図るなど避難体制の整備や地域防災力の強化を進めます。
- 地震・津波や豪雨などの災害時に区民の生命を守るため、発生時に区民一人ひとりが適切な行動がとれるよう、ハザードマップなどによる危険箇所の周知や命を守る行動の啓発を図ります。
- 災害時における情報提供体制の整備や、備蓄品の計画的な更新など円滑な避難所運営に向けた備えを徹底します。
- 浸水被害の軽減を図るため、下水道施設の整備を進めるとともに、自助・共助の強化を含む総合的な浸水対策を進めます。



ジュニアレスキュー隊育成講習会

<実施に向けた取組み例>

- ・ 自主防災組織の育成
- ・ ジュニアレスキュー隊育成講習会
- ・ 避難所機能強化の推進
- ・ 江南区防災訓練
- ・ 雨水管渠・調整池の整備
- ・ 総合的な浸水対策強化のための、自助対策への支援

(2) 防犯・交通安全の活動の強化

- 区民が安心して安全な生活を送るため、関係機関・団体と連携し、街頭啓発活動や防犯パトロールを強化するなど犯罪の起こりにくい環境づくりを推進します。

- 関係機関・団体と連携し、危険個所の解消に努めるとともに、街頭指導や交通安全教室の開催など区民の交通安全意識の向上を図り、交通事故などの起こりにくい環境づくりを推進します。

<実施に向けた取組み例>

- ・防犯キャンペーン・防犯パトロールの推進
- ・交通安全施設整備事業
- ・交通安全運動の推進

2 健やかにいきいきと暮らせるまちづくり

(1) ずっと安心して暮らせる地域づくり

- 区民・福祉関係者等との協働により、地域における福祉の諸問題に対し、相互に助け合う関係や仕組みづくりを推進します。
- 高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくために、コミュニティ協議会、自治会・町内会をはじめ様々な団体が主体となった生活支援の充実・強化の取組みや活動を支援します。
- 誰もが安心して住み慣れた地域で生活が継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築に向け、多職種による医療・福祉・介護の連携を図ります。
- 障がいのある人が地域で自立して生活できるよう、住まいの確保、就労の場や区民と交流できる機会等の創出を支援します。
- 健康づくりや介護予防、さらに健康寿命の延伸を図るため、食生活改善推進委員・運動普及推進委員の計画的な育成や現在の活動の場を拡大し、地域の中で身近な健康づくりを推進します。

<実施に向けた取組み例>

- 地域包括ケアシステムの構築
 - ・江南区在宅医療・福祉ネットワーク
 - ・高齢者を地域でささえるモデル事業
 - ・老人福祉センターの活用
 - ・地域の茶の間
- 地域福祉
 - ・江南区ふれあい・ささえあいプランの推進
 - ・江南区福祉センター運営事業
- 障がい福祉
 - ・障がい者地域自立支援協議会の開催
- 健康寿命延伸介護予防
 - ・食生活改善推進委員、運動普及推進委員を中心としたイベントや講座の開催
 - ・介護予防の運動を地域で普及
 - ・食生活改善推進委員、運動普及推進委員養成講座

(2) 子どもを安心して産み育てられるまちづくり

- 安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに努めるとともに、安産教室や子どもの発達、しつけなどに関する育児相談などの母子保健事業、家庭教育学級等の充実を図ります。
- 地域に密着した親しみのある保育園づくりや在宅児への保育園開放などを通じ、地域との交流を深め、人と人とのつながりを大切にした子育て支援を行います。
- 子どもたちの健やかな成長を図るため、地域と行政が連携し、子どもの居場所づくりや親子でふれあえる場を提供することにより、地域の中で子どもが健やかに育つまちづくりを進めます。

<実施に向けた取組み例>

- ・ 母子保健事業
- ・ 育児相談事業
- ・ 家庭教育学級
- ・ 保育園、地域子育て支援センター、児童館の充実
- ・ 子どもの居場所づくり
- ・ 未来へつなごう！中高生「やりたいこと」応援プロジェクト



母子保健事業



未来へつなごう！
中高生「やりたいこと」応援プロジェクト

Ⅲ 創造的な産業を育む活力のあるまち

Ⅰ 創造的な産業の育成

(1) 農業の振興

- 農地中間管理機構と連携し、担い手への農地集積・集約化を図るとともに、6次産業化を進め、都市近郊の立地を活かした革新的で持続可能な農業を推進します。
- 地産地消の重要性や、健康維持のための望ましい食習慣などを身につける食育と健康づくりを進めます。
- 「食」と「農」を活かした新たな区の魅力を発信するため、国家戦略特区による規制緩和を活かし、農産物の直売所や農家レストラン、農業体験など、生産者と消費者が触れあえる場づくりについて検討を進めます。
- 自然環境や景観の維持のため、環境保全型農業を推進します。



梅もぎ体験

<実施に向けた取組み例>

- ・ 農地中間管理機構制度の推進
- ・ 魅力ぎっしり江南区の創造と発信
- ・ 農業特区の指定の効果を最大限活用した6次産業化の推進
- ・ 環境保全型農業の推進

(2) 新たな産業の創出

- 国家戦略特区指定による規制緩和を活かし、付加価値の高い食品開発の仕組みづくりを地元企業や商工団体とともに進めます。
- 地域ならではの特産的商品の育成を進めるとともに、それらを集めた特産品見本市を開催します。
- 地域に根差した高い付加価値を持つ創造的な産業の育成を進め、雇用の拡大を目指します。
- 販路の拡大など新たなビジネス展開や、経営相談、各種融資制度の情報提供に努め、商工業の



梅実スイーツ

振興を支援します。

<実施に向けた取組み例>

- ・旬果旬菜いきいきフェスタの開催
- ・魅力ぎっしり江南区の創造と発信
- ・農業特区の指定の効果を最大限活用したニューフードバレーの推進
- ・新潟IPC財団との連携による経営相談や販路開拓への支援
- ・各種融資制度の相談・認定（受付）

2 活力と賑わいのあるまちなかの創出

(1) まちなかの活性化と交流人口の拡大

- まちなか商業活性化計画に基づき、魅力ある商店街づくりのため、個店の魅力向上や商店街の新たな機能づくりを進めます。
- まちなかの活性化に向けて、地域に存在する様々な地域資源を掘り起こし、総合的に活用することで地域の魅力を高め、交流人口の拡大を進めます。



旬果旬菜いきいきフェスタ

<実施に向けた取組み例>

- ・魅力ぎっしり江南区の創造と発信
- ・がんばるまちなか支援事業
- ・農商工連携の推進

IV 未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち

Ⅰ 地域と共に創る子どもたちの未来

(1) 生涯にわたり学びの機会の提供

- 子どもたちが食生活の大切さを学ぶ機会や、多世代との交流を図る取組みなど、地域で子どもを育てる環境づくりを進めます。
- 地域の課題や区民の学習ニーズの把握に努め、仲間づくりや生きがいを持った生活ができるよう、多様な世代の学習活動の場の提供に努めます。
- 公民館や図書館等を活用し、それぞれの年代に応じた多様な学習機会や情報を提供するとともに、区民の自発的な生涯学習活動を支援します。



公民館活動

<実施に向けた取組み例>

- ・おはよう朝ごはん事業
- ・子ども料理教室
- ・地域課題や学習ニーズに対応した学習機会の提供
- ・ブックスタート事業の継続

(2) 学・社・民の融合による教育の推進

- 地域と学校パートナーシップ事業により、各学校において地域教育コーディネーターを核に地域や社会教育施設などとの協働事業を推進し、地域社会全体で子どもを育てる機運の醸成に努めます。
- より多くの区民から学校支援ボランティアとして参画してもらうため、事業の趣旨や成果の周知をさらに進めます。
- 地域と学校の連携を進めるため、校舎内に、地域活動の拠点としても活用できるボランティア室などの施設整備を進めます。
- 児童生徒が安全でよりよい環境で学習ができるよう、校舎など施設整備に努めます。

<実施に向けた取組み例>

- ・地域と学校パートナーシップ事業の推進（各学校での取組みの充実、広報の工夫）
- ・ボランティア室の整備
- ・長寿命化の視点を踏まえた、計画的な施設整備

（3）家庭教育の支援

○子育て世代の家庭教育の支援を図るため関係機関と連携し、子育て情報の提供や家庭教育に関する学習機会の充実を図ります。

<実施に向けた取組み例>

- ・乳児期家庭教育学級
- ・幼児期家庭教育学級
- ・児童期家庭教育学級
- ・プレママパパ講座



親子の食育教室

2 文化が花開きスポーツの盛んなまちづくり

（1）文化の振興・文化の創造

○多様な市民ニーズに対応して、江南区文化会館が質の高い文化・芸術を発信する拠点施設となるよう、市内の文化施設との連携を図るなど、効果的・効率的な自主事業の実施に努めます。

○江南区文化会館を利用する団体をはじめ、様々な活動に取り組む区民とともに文化・芸術に親しむ機会を創りだします。

<実施に向けた取組み例>

- ・江南区文化会館の管理運営
- ・江南区文化創造事業
- ・江南区ギャラリーマップの発行・更新

(2) 歴史や伝統の継承

- 地域に残る歴史や歴史的資料の収集と保存に努めるとともに、それらの積極的活用により郷土の歴史に対する理解を深め、交流人口の拡大を目指します。
- 先人が築いた歴史や伝統を次代に継承するため、小・中学生に向けた地域の歴史講座を開催するとともに、市民ボランティアガイドの人材育成を図ります。



コミュニティ活動「樽太鼓教室」

<実施に向けた取組み例>

- ・ 江南区郷土資料館管理運営事業
- ・ 市民歴史ガイドの育成
- ・ 総合学習授業への講師派遣

(3) スポーツ活動の支援・振興

- スポーツ振興会、スポーツ推進委員や各体育施設と協力しながら、区民が気軽に生涯にわたりスポーツに親しめる環境づくりを進めます。
- 区体育協会と連携を図り、底辺の拡大、競技力の向上、青少年健全育成の支援を行います。
- 地域のスポーツ振興のため、廃校となった学校グラウンド等の有効活用について検討します。



フロアカーリング教室

<実施に向けた取組み例>

- ・ 江南区スポーツ施設の管理運営
- ・ 地区スポーツ振興会補助金
- ・ スポーツ振興事業
- ・ 廃校となった学校グラウンド等の有効活用についての検討

V 区民がまちづくりの主役として輝くまち

Ⅰ 区民と共に歩む協働のまち

(1) 区自治協議会との協働

- 区の一体感の醸成や地域全体の発展を目指して、協働の要である区自治協議会と連携し、区民の想いが区政に反映するよう、区の特徴を活かした事業や地域課題を解決する事業に取り組めます。
- 区民の区自治協議会への理解、関心を高めるため、協議会広報紙の継続的発行等さらなる情報提供に努めます。



区自治協議会提案事業
「子ども会議プロジェクト」

<実施に向けた取組み例>

- ・ 区自治協議会運営（会議運営・提案事業・広報紙発行・区政評価）
- ・ 特色ある区づくり事業

(2) コミュニティ活動への支援

- 自治会・町内会・地域コミュニティ協議会をはじめ、地域で活動する様々な団体の情報交換の場を設けるなど、それぞれの組織同士の連携を促進し、地域における相互扶助の意識を高める取組みを進めます。
- 持続可能な地域活動団体を支援するため、担い手育成に向けた人材発掘・人材育成への取組みを行います。
- 自治会・町内会活動を支援する各種補助制度の周知や身近な課題などの情報共有を図るため、自治会・町内会長会議を開催します。



コミュニティ活動
「曾野木ふれあいまつり」

- 地域コミュニティ協議会の自主的、自発的な活動を支援するため、活動拠点の整備等を推進していくとともに、拠点を中心とした地域コミュニティ活動の活性化を支援します。
- 曾野木地区の市営住宅跡地については、コミュニティ活動拠点などの整備について、地元及び関係機関と協議しながら、検討を進めます。

<実施に向けた取組み例>

- ・ コミュニティ協議会への支援と助成
- ・ 自治会などへの支援と助成
- ・ 自治会・町内会長会議の開催
- ・ コミュニティ協議会連絡会議の開催
- ・ 曾野木地区市営住宅跡地のコミュニティ活動拠点などの整備について検討

2 区民の声を大切にする区役所づくり

(1) 親しまれ信頼される区役所

- 江南区サービス憲章を遵守し、区役所機能の充実と強化を進め、信頼され親しまれる区役所づくりを目指します。
- 区民の視点に立った、わかりやすい窓口対応を進めるため、案内サインの充実やプライバシー保護に配慮したレイアウトに向けた取組みを進めます。
- イベントの開催や交流人口拡大に向けた事業の実施にあたっては、組織の横断的な連携を深め、区役所全体として効果的、効率的な実施に努めます。
- 接遇やコンプライアンス、人権研修など基礎的研修ほか、業務に関する専門性の高い研修会に積極的に参加する環境を整え、職員資質の向上や、専門性の高い人材の育成に努めます。
- 一人ひとりの人権が尊重され、仕事と家庭、地域活動等のバランスをとりながら、誰もが充実した生活を送れるよう、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、啓発活動を行います。



<実施に向けた取り組み例>

- ・区内施設の管理運営に関する各種事業
- ・区役所窓口改善運動の推進
- ・事業の合理化、改善の推進
- ・職員研修の実施
- ・男女共同参画のための意識啓発

(2) 広報・広聴の充実

- 区役所だよりや区ホームページなど様々な広報媒体を活用して、江南区の魅力の発信や区民への情報提供を積極的に推進します。
- 区民の多様なニーズを施策に反映させる取り組みとして、区長への手紙、区長懇談会を開催するなど、区民の声を幅広く聴く機会の充実に努めます。



区役所だより「こうなん」

<実施に向けた取り組み例>

- ・区役所だより発行
- ・区ホームページによる情報発信
- ・区長への手紙
- ・区長懇談会の開催

「江南区区ビジョンまちづくり計画」用語解説集

五十音	用語	解説
か	革新的な農業	従来の6次産業に教育、医療、福祉、観光、環境、子育てなどの要素を組み合わせた、これまでにない新しいタイプの農業の姿。
	学・社・民の融合による教育	学校教育と社会教育、民間（地域住民や地域課題解決に取り組む団体など）とが、一体となって教育活動を進めること。
	学校支援ボランティア	学校における学習活動、課外活動などを支援する地域住民のこと。特に、授業において個々の子どもの学習を支援するボランティアを「学習支援ボランティア」と呼んでいる。
き	共助	地域における多様な生活ニーズへの的確な対応を図るため、自立した個人が主体的に関わり、支え合うこと。また、「自助」とは、自分や家族の身を自ら守ること。「公助」とは、行政が個人や地域の取組みを支援したり、個人や地域レベルでは解決できない問題に取り組むこと。
	協働	市民と行政が、対等な関係で相互の立場や特性を理解し、目的を共有し、連携・協力すること。
く	区障がい者地域自立支援協議会	区における障がい福祉に係る地域課題等を協議する場。 障がい福祉サービス事業所、教育関係、地域包括支援センター、社会福祉協議会、行政等の担当で構成。
	区自治協議会	市民と市とが協働して地域のまちづくりその他の課題に取組み、住民自治の推進を図るため、地方自治法に基づき各行政区に設置する機関。
	区バス	区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者に委託して運行する乗合バス。
け	健康寿命	健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間。
	健幸都市づくり	「健幸都市」とは、「健康」＋「幸福」の造語で、身体面での健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れるまちづくり。
こ	交通結節点	交通手段相互の接続にあたり、安全で快適な乗り換え環境を有する施設をいう。具体的には、鉄道駅、バスターミナル、駅前広場など。
	交流人口	地域に訪れる人の数。定住人口に対する概念。
	個店の魅力	入ってみたいと思わせる、あるいは欲しいものがそろっている、又はそのお店でしか手に入らないものやサービスがあることなどでリピーターを生みだし、顧客を増やせる個人商店の力。

五十音	用語	解説
こ	コーディネーター	いろいろな要素を統合したり調整したりして、一つにまとめ上げる人。
	国家戦略特区	国と地方が連携し、国際競争力が高い拠点づくりを行うため、特定の地域や分野を限定して規制緩和や税制上の優遇措置などを行うことで、企業の投資や人材を呼び込み、地域経済の活性化を目指すために国が指定する区域。
	コミュニティ	人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、およびその人々の集団。地域社会。共同体。
さ	在宅医療	希望する市民ができる限り住み慣れた自宅などで療養し、医師などが訪ねて診療すること。
	在宅医療ネットワーク	市民が住み慣れた環境で、安心して生活することができるよう、急性期から回復期、在宅医療に至るまでの適切なサービスを切れ目なく提供するため、各地域の多職種が協働する在宅医療体制。
	参画	政策、施策等の企画立案の段階から市政に主体的にかかわり、行動すること。
し	自主防災組織	地域住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の精神に基づき、地域の防災活動のために自主的に結成された組織。
	市政世論調査	市民生活の現状、市民の市政に対する要望、意識、関心度などを把握し、今後の市政運営の基礎資料を得る目的で、毎年行っている調査。
	住民バス	バス路線の廃止問題を抱える地区や公共交通空白・不便地域において、地元住民組織が主体となって運営する乗合輸送サービス。
	食育	食に関する適切な判断力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現することにより、心身の健康の増進と豊かな人間形成を行うための教育。
す	スマートインターチェンジ	ETC（自動料金支払いシステム）車両のみを対象としたインターチェンジ。利用車両が限定されており、簡易な料金所の設置で済み、料金徴収員の対応が不要なため、従来のインターチェンジに比べて低コストでの導入が可能。
せ	生活圏	概ね区の単位。病院や文化施設など、より高次の都市機能の集積地（地域拠点）を共有する圏域。
そ	創造的な産業	創造性や技能に由来した知的財産（特許が取れるような、特殊なもの）を生み出す産業。
た	待機児童	認可保育所への入所を希望し、市に申込書を提出している子どものうち、入所要件を満たしているにもかかわらず入所できずにいる子ども。

五十音	用語	解説
ち	地域	あまり広くない範囲の土地に住み、生活のうえの結びつきの強い社会。
	地域教育コーディネーター	学校と地域活動や社会教育施設の調整役となり、地域の力を学校に活かし、学校を核とした教育活動の企画・運営などの役割を担う。
	地域コミュニティ協議会	身近な地域課題を解決するために、概ね小学校区を基本単位として、自治会・町内会を中心にさまざまな団体等で構成された組織。
	地域包括ケアシステム	高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制。
	地産地消	地域で生産された農林水産物を、その生産された地域内において消費すること。
て	デマンド交通	利用者の移動要望（電話予約等）に応じて、運行経路や時間を調整して効率的な運行計画を立て、柔軟な輸送を可能とする、バスやタクシーなどを利用した乗合型の交通システム。
に	ニューフードバレー	農業や研究機関を含めた食産業全体が連携し、ともに成長産業として、一体となって発展を目指す取組み。
の	農家レストラン	自ら生産した農畜産物又は地域で生産された農畜産物を主たる材料とした料理を提供する施設。
	農業活性化研究センター	農業者が抱えている技術的な課題の解決や、農村の活性化、6次産業化、農商工連携を積極的に支援するための施設。
	農業特区	国家戦略特区のうち、新潟市が提案した「ニューフードバレー特区」が、「大規模農業改革拠点」として指定されたもの。地域の高品質な農産物及び高い生産力を活かし、革新的な農業を実践するとともに、食品関連産業も含めた産学官の連携を通じ、農業の生産性向上及び農産物・食品の高付加価値化を実現し、農業の国際競争力強化のための拠点を形成する。併せて、農業分野の創業、雇用拡大を支援する。これらにより、農業を含めた食品産業全体が連携し、成長産業として一体となって発展していくことを目指す。
	農商工連携	農業と商工業の連携によりそれぞれの経営資源を融合させることで、消費者ニーズの高い新しい商品の開発や新たな雇用形態の創出、プロ農業経営法人の育成などにより地域イノベーションをおこし、農業の成長産業への転換を目指すもの。
は	パークアンドライド	交通渋滞の緩和のため、自動車等を鉄道駅やバス停の駐車場に停車し、そこから鉄道やバスなどの公共交通機関に乗り換えて目的地に行く方法。

五十音	用語	解説
ふ	ブックスタート	1992年に英国で発祥し日本では2001年に東京杉並区で開始した。以降全国に広がっている。新潟市では2011年から各区ごとに実施している。赤ちゃんに絵本を読み聞かせることで親子の絆を深めることを目的としている。実施方法は保健所や健康福祉課等と協力し、1歳の歯科検診時に図書館職員やボランティアが1組ずつに読み聞かせをし、読み聞かせの大切さを伝え、読んだ絵本を1冊プレゼントしている。
ほ	放課後児童クラブ	就労などにより昼間保護者が家庭にいない児童に対し、生活の場を与え、適切な遊びを通して児童の健全育成を図る施設。
ま	まちなか	まちの中で中心的機能を有する範囲。地域拠点、商業系地域を中心とした旧来からの中心的地区。
み	魅力ある商店街	魅力ある個店が集合し、街を楽しめる機能を持つ、集客力のある商店街。
れ	レクリエーション	仕事・勉強などの肉体的・精神的疲労をいやし、元気を回復するために休養をとったり娯楽を行ったりすること。
ろ	6次産業化	農林漁業者（1次産業従事者）が原材料供給者としてだけでなく、「地域資源」（農林水産物、バイオマス、自然エネルギーなど）を有効に活用し、加工（2次産業）・流通や販売（3次産業）に取り組む経営の多角化を進め、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。
わ	ワーク・ライフ・バランス	仕事と家庭や地域生活などとの調和をとり、その両方を充実させる生き方。仕事と生活の調和。

(平成27年3月作成)

平成27年3月 発行

新潟市江南区役所 地域課

〒950-0195 新潟市江南区泉町3-4-5

TEL : 025-383-1000 (代表) FAX : 025-381-7090

E-mail : chiiki.k@city.niigata.lg.jp



緑と調和した
賑わいと安らぎのあるまち
江南区